



特集

「令和5年度 良質な医師を育てる研修」

～ 病院勤務医に求められる総合内科診療スキル ～

講師

東京医療センター
総合内科科長・
感染症内科科長
鄭 東孝



PROFILE

出身地：東京都
出身大学：産業医科大学(1989年卒)
宝物：職場の仲間
座右の銘：上手いかわなくて当たり前

京都医療センター
総合内科診療科長・
統括診療部長
小山 弘



PROFILE

出身地：大阪府
出身大学：京都大学(1986年卒)
座右の銘：大騒ぎをして外れたら恥をかくのは自分、大騒ぎをせず(心配していたことが)あたら死ぬのは患者。大騒ぎをせよ(そしてみんなの力を借りよ)。

東京医療センター
総合内科副院長
山田 康博



PROFILE

出身地：長崎県
出身大学：久留米大学(2004年卒)
宝物：家族との時間
座右の銘：一期一会

NHOの“良質な医師を育てる研修”(受講料無料・宿泊交通費支給)は、全国のNHO病院の経験豊富なスペシャリストから直接指導を受けられるだけでなく、NHOの全国各地の医師たちと交流できることも魅力。今回の特集は“良質な医師を育てる研修”より2023年6月9日・17日に開催された『病院勤務医に求められる総合内科診療スキル』を紹介。講義を担当した先生方を代表して、鄭東孝先生(東京医療センター)、小山弘先生(京都医療センター)、山田康博先生(東京医療センター)にお話を伺いました。



『病院勤務医に求められる総合内科診療スキル』の開催目的、意義とは

鄭…高齢化社会の進展によって、複数疾患をもつ高齢患者さんが増加し、単一の疾患だけを診ていれば良い時代は過ぎました。治療を終えても「せん妄」や「廃用症候群」の進行、さらに生活環境の問題など、複数の課題に適切に対処しなければ退院できない高齢患者さんも増え続けています。このような危機感に対応すべく、2014年から『病院勤務医に求められる総合内科診療スキル』をスタートしました。この研修によっ

て、総合内科・総合診療のプレゼンスが高まることも期待しています。

病院勤務医に求められる総合内科診療スキルとは

小山…患者さんの身体的な問題に限らず、精神・心理・社会的なことも含めたあらゆる問題に対して適切に対応できる能力です。

鄭…病院医療にあって病院外医療にないもの。それは「退院」です。従来の“疾患の治療を目指す医療”のみでは高齢患者の退院は困難であり、エビデンスに基づいた適切かつ総合的なアプローチによって多様な問題を解決し、退院に導くこと

が重要となります。

そのためには幅広い疾患に対応できるテクニカルスキルだけではなく、在宅復帰するにはどういった生活支援や社会支援が必要なのか、多職種と協働したチーム医療の実践力などノンテクニカルスキルも求められます。

この研修の特徴について

山田…楽しく、和気あいあいと学ぶことができる研修であり、総合内科診療に大切な「現場で起こる多様な問題を解決し、患者さんに提供する医療の質を向上させるスキル」を習得することができます。テクニカルスキルだけではなく、知識や考え方も含め、受講した先生たちが実際に現場で“使える”内容であり、内科・総合診療希望者向けではありますが、どなたにでも非常に役に立つ研修となっています。

鄭…カジュアルな雰囲気なか



特集「令和5年度 良質な医師を育てる研修」～病院勤務医に求められる総合内科診療スキル～



インタラクティブに楽しく学んでいただける研修となっています。

みなさんが自分のしている医療に面白さを感じられないのであれば、それは診療のポイントが分かっていないからかもしれません。認知症患者さんへの診療も技術をもってアプローチすることで、医師として非常に興味深く、楽しくやりがいをもって診療することができます。こうした診療の楽しさもしっかり伝えることができる研修を心掛けています。

小山…総合内科は幅が広く、部分部分を独自に勉強していくことは難しいことだと思います。この研修では経験豊富な総合内科医から、実際の現場で遭遇する問題と、それを解決するためのノウハウや勉強方法を教えてもらうことができます。教えてもらったノウハウをもって自分で解決策を考えながら学習していくことで、総合診療スキルに重要な問題解決能力が醸成されていくでしょう。そういった研修を心掛けていますし、楽しく学べることも非常に大切にしています。



NHOで働く(研鑽を積む)魅力とは

山田…NHOの各病院は政策医療、高度医療、急性期医療といったそれぞれに使命、特性があり、それが研修内容に反映され、各病院で魅力的な研修が行われています。NHOの各病院との連携もアドバンテージであり、施設外での研修を希望した際にも、同じNHO病院であればスムーズに受け入れができると思います。“良質な医師を育てる研修”のように、多施設が連携した教育を

受けることができるのも魅力です。**鄭**…NHOには意欲のある専攻医たちが初期研修医たちを教えるというカルチャーがあります。教えることで自らも知識が身につきますし、熱量のある同僚や先輩と共に働くことはとても楽しいでしょう。

若手医師のみなさんへアドバイスとメッセージ

山田…臨床は基本的に大変ですが、面白いこともいっぱいあるので楽しんでほしいですし、知識やスキルをどんどん得て、楽しいものに自ら変えていくことも大切です。

また、「医師の働き方改革」による勤怠管理やシフト制の導入によって、指導医と研修医との接触時間が減るなど現場では変化が起きており、これからの医師はセルフマネジメントがより求められます。自分を上手く俯瞰して行動してください。

鄭…勉強は知識武装するためのものではなく、アウトプットにより患者さんに最適な医療を提供し、退院など然るべき着地点に導くことで意味を成します。たとえ研修医であっても、患者さんは目の前の医師にすぎず、一人の医師として最善の結果を出さなければならぬタスクがあります。そのためにしっ

かり勉強に励んでください。そして、総合内科医の道に進まなくとも、患者さんの退院後の生活までを見据えた診療ができるジェネラルマインドをもった医師になってほしいと思います。

小山…超高齢化社会のなか、専門分野しか診ようとする医師は患者さんの役に立つことは難しいでしょう。例えば、肺炎で来た寝たきりの患者さんを診た際、肺炎の治療だけではなく、パーキンソン病の疑いに気付くことで、神経内科にて適切な治療を受けることができ、退院時は歩いて帰ることができた。もし、肺炎だけが診ていなかったら寝たきりのままだったでしょう。それは医師にとって大きな“罪”です。どの診療科に進もうとも専門領域以外の問題も認識し、適切な治療に導くことができる医師になってください。

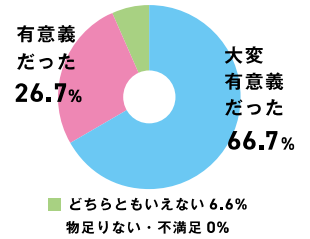
そして、医師という職業を長く続けるには“楽しむ”ことも大切。「もっと深く理解したい」「この問題を解決したい」と、さまざまなことに興味を持ち、主体的に学び続けたいと思います。



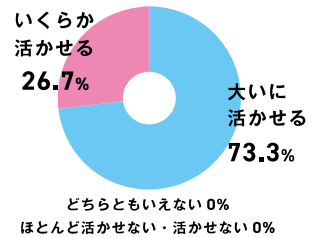
RESEARCH

セミナー参加者の声

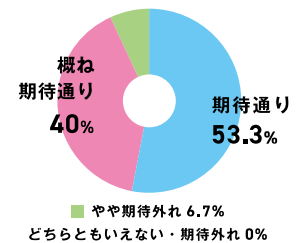
Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



Q 期待したとおりの研修内容だった？



IMPRESSION 参加した先生の感想

経験豊富な総合内科の先生方が、普段からどのように考え、どういうことに気を付けて診察や病棟管理をしているのかなど、重要なポイントをわかりやすく教えていただきました。ちょうど患者さんの全身管理で悩んでいたこともあり、とても有意義な研修となりました。それまで自分の所属する病院内だけで学んできたことが、こうした研修を通して普段とは異なる視点の学びや考え方を知ることができ、また、全国各地の先生方と交流ができたことで視野を広げることもできました。“良質な医師を育てる研修”は交通費や宿泊費も支給されるため、積極的に参加しない手はないと思います。

総合内科志望ではないのですが、右も左もわからないような状態を早く脱却し、自信を持って診療に携わるスキルを身に付けたいと思い参加しました。今回の研修で学んだ内容は、医師としてあらゆる場面で応用できるもの。患者さんの病態を適切に把握しようとする姿勢を知識とともにブラッシュアップし、病棟での診療だけでなく、救急対応のスキルアップにも結びつけられたらと考えています。研修は非常に楽しく学べるものでした。あまり肩肘張らず、普段の環境とは少しだけ違うエリアに遊びに行くというイメージで参加してみるのも良い経験になると思います。

長崎医療センター
初期研修医 2年目
小川 紗智

PROFILE

出身地：長崎県
出身大学：長崎大学(2022年度卒)
宝 物：家族
座右の銘：継続は力なり



京都医療センター
初期研修医 1年目
浅野 卓馬

PROFILE

出身地：岡山県
出身大学：大阪大学(2023年度卒)
宝 物：小中高大、それぞれの学校生活で同じ時間を過ごした友達
座右の銘：猪突猛進

